

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等									
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等	
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		
I 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置										
1 質の高い医療の提供					石岡 副委員長					・2病院ともに専門領域に特化した診療機能を担いながら、高度・専門医療の提供に努めていた。
					井深 委員					
					郷内 委員					
					佐藤 (和) 委員					・質の高い医療を提供するために様々な取組を行ってきたが、コロナ禍、施設の老朽化、病院再編問題等により十分な成果を出せていないのは残念である。
					佐藤 (裕) 委員					・精神医療センターでは、多職種連携、クリニカルパスの活用等を努めて、精神医療の質を維持向上に努力している。数値目標を下回る項目も一部あったが、おおむね達成していると評価できる。
					菅原 委員					・がんセンターでは、患者数や治療・検査実施件数が増加し、目標を上回る専門医療の提供がされた。また、地域医療への貢献においては、病病・病診連携における情報伝達や共有の取組が行われ、今後の連携強化につながる活動として評価できる。
				富田 委員						
				富永 委員長						

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等										
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等		
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合			
(1) 政策医療、高度・専門医療の確実な提供	B	A			石岡副委員長	B	C			【がんセンター】 ・目標水準を「遙かに上回る」とは言えない。他の全がん協病院と比較して平均的(他の全がん協病院のうち、がん専門病院と比較すると研究費獲得は平均以下)。がんゲノム医療に関しては、がんゲノム医療連携病院からがんゲノム医療拠点病院に昇格するチャンスがあったが、実現していない。	
					井深委員	B	A			【精神医療センター】 ・県内唯一の「精神科救急入院料算定病棟(スーパー救急)」の効率的な運用を図るため、定期的なカンファレンスを行うことでベッドコントロールを行いながら、民間病院では対応困難な患者の受入に努めていた。 【がんセンター】 ・がん治療において、放射線治療や化学療法などの集学的治療の促進に努めていた。 ・患者の苦痛の早期拾い上げを徹底し、緩和ケアの対応件数の増加に取り組んでいた。	
					郷内委員	B	A			【精神医療センター】 ・県内で唯一の「精神科救急急性期医療入院料算定病棟」を運営し、必要な県内の精神科の高度医療を確保した。ただし、目標数値目標が未達のもの複数見られ、良い成果を上げている部分とまだ状態になったのは残念 【がんセンター】 ・ほとんどの数値目標で達成率を110%以上としていることは、病院の努力と苦闘の賜物と思う。 ・都道府県がん診療連携拠点病院の4年更新を達成できたことは、国からも高い水準の医療提供を認められたものと理解する。	
					佐藤(和)委員	B	A				
					佐藤(裕)委員	C	B			【精神医療センター】 ・身体合併症への対応については、関係機関とのネットワークの構築、連携強化の取組がなされていると記載されているが、具体的にどれだけの患者数があり、どのような病院と連携しているのか教えてほしい。【資料6-1 質問事項等1】 ・措置入院患者の受け入れについては宮城県内において62.9%であり、大きな役割を果たしている。 ・入院患者数が前年比でも目標値比でも大きく減少している。外来患者数はほぼ横ばいであるのに入院数の減少が常勤医師の減員だけで説明できるのか疑問である。【資料6-1 質問事項等2】 ・児童思春期医療の提供において患者数が入院・外来・デイケアのいずれもが減少ないしは低調な状況である。この医療は当院が最も力を注いできた分野の一つであり、抜本的な検討が必要であると思われる。 【がんセンター】 ・入院・外来患者数が安定し、手術件数(支援ロボットを含む)・放射線治療数も伸びている。順調だと思う。 ・科研費採択件数及び採択金額はともに目標を達成したとの自己評価であるが、目標値の設定自体が従前の実績に比べて低すぎると感じる。	
					菅原委員	B	A				
					富田委員	B	A			【精神医療センター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【がんセンター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。	
					富永委員長	B	A				
					県	B	A			・精神医療センターについては、県内唯一の精神科救急急性期医療入院料算定病棟(スーパー救急病棟)を効果的に運用するなど、本県に必要な精神医療を提供していることを総合的に評価し、Bと判定した。 ・がんセンターについては、がん治療において、患者の状態に応じた適切な医療の提供に努めており、がんゲノム医療に関する取組件数や手術件数の増加など、目標を上回る成果があると評価し、Aと判定した。	

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等										
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等		
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合			
(2) 医療機器、施設の計画的な更新・整備	B	B			石岡副委員長	C	B				<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の建替をはじめ施設設備の老朽化が大きな課題で解決の目処が立たない(第1回精神保健福祉審議会での施設長の発言にあるように、課題がある)。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標水準を「遙かに上回る」とは言えない。他の全がん協病院と比較して平均的(他の全がん協病院のうち、がん専門病院と比較すると研究費獲得は平均以下)。
					井深委員	B	B				<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良質な医療提供や医療水準の向上を図るための設備更新については、将来の移転建替を見据え、必要最低限の設備修繕に留めていた。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度・専門医療を担う病院として、良質な医療提供や医療水準の向上を図るための設備更新については、収支バランスを考慮し、計画的に設備の入れ替えを行っていた。
					郷内委員	C	A				<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の統合・合築の実現は相当先のことであり、今現在の高度・専門医療の提供に向けた医療機器や施設の修繕、更新が綱渡り状態である。さらに、移転計画にも遅滞が見られ、現在の医療提供に影響が見られる。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度・専門医療の提供に資する医療機器の導入や省エネルギー対策を行った。
					佐藤(和)委員	B	B				
					佐藤(裕)委員	C	B				<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院再編の渦中にあり、医療機器の更新や老朽化した施設の修繕はとても難しい判断であろうと推察する。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は医療機器の更新・整備は小規模なものとなった。
					菅原委員	B	B				
					富田委員	C	B				<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構のみの責任とはいえないにせよ、宮城県・機構とで進めている建替の計画が、より早期に関係者からの意見聴取・調整が十分になされてこなかったこともあって、現在に至るまで方針の目的が立っておらず、そのために施設の更新・整備の状況が不十分なままとなり、利用者に不利益をもたらしていると言わざるをえない現状がある以上、C評価が妥当ではないだろうか。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の内容は妥当と思われる。
					富永委員長	B	B				
県	C	B				<p>・精神医療センターについては、計画的に医療機器、施設の更新・整備を行っているものの、施設の老朽化が進んでいる状況であり、目標の水準を上回る成果があるとは認められないため、Cと判定した。</p> <p>・がんセンターについては、経営健全化の観点から収支バランスを考慮し、計画的な医療機器等の更新・導入及び施設の整備を行ったほか、新型コロナウイルス関係の機器の緊急整備などを着実に進めていることから、目標を達成していると評価し、Bと判定した。</p>					

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等										
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等		
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合			
(3) 地域医療への貢献	B	A			石岡副委員長	B	B			【がんセンター】 ・目標水準を「遙かに上回る」とは言えない。他の全がん協病院と比較して平均的(他の全がん協病院のうち、がん専門病院と比較すると研究費獲得は平均以下)。	
					井深委員	B	A			【精神医療センター】 ・地域医療連携室を中心に他の医療機関との連携を強化しながら入院受入等を図るとともに、退院支援につなげる地域連携クリティカルパスに準じた対応に努めていた。 【がんセンター】 ・新規に開業した地域の医療機関等に対して、病院との連携を深める目的で登録医制度を積極的に推進し、登録数の積み上げを図っていた。	
					郷内委員	C	A			【精神医療センター】 ・患者紹介率が目標を大幅に下回った。逆紹介率はほぼ目標を達成した。 【がんセンター】 ・紹介率は目標の111.8%と大幅に上回った。 逆紹介率も目標の114.7%を達成している。	
					佐藤(和)委員	B	A				
					佐藤(裕)委員	C	B			【精神医療センター】 ・紹介率が目標率を大きく下回り、近年では突出して低い数字となった。原因について調査・探求すべき。【資料6-1 質問事項等3】 【がんセンター】 ・紹介率・逆紹介率ともに目標を上回り、安定した数字となっている。	
					菅原委員	B	A				
					富田委員	B	A			【精神医療センター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【がんセンター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。	
					富永委員長	B	B				
					県	B	A			・精神医療センターについては、精神科救急急性期の患者の受け入れが増加傾向にあり、患者の紹介率が目標を下回ったが、他の医療機関との連携の推進や、逆紹介率が向上した点から、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 ・がんセンターについては、地域の医療機関との病病・病診連携を推進し、患者の紹介率及び逆紹介率のいずれも対計画値の110%以上を達成したことから、目標を上回る成果があると評価し、Aと判定した。	

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等											
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等			
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合				
(4) 医療に関する調査・研究と情報の発信	B	B			石岡副委員長	B	B					
					井深委員	B	B					【精神医療センター】 ・市町村等の行政機関に赴き、住民に対する個別相談会を実施するなど、情報発信に努めていた。 【がんセンター】 ・各種セミナー・研修会についてはハイブリッド形式で行うなど、適切な感染症対策を講じながら開催回数の積み上げを図っていた。
					郷内委員	A	A					【精神医療センター】 ・臨床研究倫理審査案件が達成率126.7%となった。 ・医療相談会の開催状況が達成率152.3%となった。学会の発表数も目標値より155.6%を達成した。その一方で学会の参加数や発表数が下回った。 【がんセンター】 ・精度の高い予後調査のデータを国立がん研究センターの全国調査に提供した。学会への参加や発表件数を評価した。ゲノム医療の検査を実施した。
					佐藤(和)委員	B	B					
					佐藤(裕)委員	B	B					【精神医療センター】 ・医療相談会の開催回数が目標値を大きく上回り、この面では基幹病院としての役割を果たしている。 【がんセンター】 ・医療機関向けセミナー・医療相談会はともに目標を超えて開催している。 ・一方、学会発表実績は目標値比・前年度対比いずれも下回り、学会参加実績は目標値を上回ったものの前年比では下回っている。専門誌への寄稿件数は目標値比・前年度比ともに下回っている。これらの状況からすると研究機能が十分に果たされているのだろうかという疑問が残る。【資料6-1 質問事項等4】
					菅原委員	B	B					
					富田委員	B	B					【精神医療センター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。ただし、調査研究に関しては、県の精神科救急や重症精神疾患診療の拠点であることと、専門医プログラムや東北大学との連携大学院制度などを活かして、より良い医療の体制整備に向けて調査研究をより活性化し、また、若手精神科医師の調査研究能力の育成を、現在以上に活発に行うと良いと思われる。 【がんセンター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。
					富永委員長	B	B					
					県	B	B					・精神医療センターについては、新型コロナウイルス感染症の影響により学会参加者数が目標値を下回ったものの、学会発表数の増加や、倫理審査委員会審議及び医療相談会の目標を上回る開催等を総合的に考え、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 ・がんセンターについては、県がん登録事業の実施や調査・研究の推進のほか、セミナーや広報活動、学会参加等について、目標を上回る取組を行っていることから、目標を達成していると評価し、Bと判定した。

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等									
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等	
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		
2 安全・安心な医療の提供	A	A	B	A	石岡副委員長	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・目標水準を「遙かに上回る」とは言えない。 【がんセンター】 ・目標水準を「遙かに上回る」とは言えない。
					井深委員	A	A	B	A	【精神医療センター】 ・医療安全や院内感染症対策に関する委員会や研修会を開催する等、積極的な医療安全対策を講じていた。 【がんセンター】 ・過去のインシデントレポートを活用しながら医療安全マニュアルの見直しを図り、新たなマニュアルを制定するなど、適切な医療安全体制を構築していた。 【本部】 ・各病院のインシデント等の発生状況を取りまとめ、情報共有に努めていたほか、医療安全管理指針に基づいた情報開示を徹底していた。
					郷内委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ①医療安全対策の推進、②医薬品の安全情報の提供、③院内感染症対策などいずれもBとした。 【がんセンター】 ①医療安全対策の推進、②患者への医薬品安全情報の提供 * 退院時薬剤情報連携加算の算定の体制づくり 【本部】 ・医療安全対策の総括及び患者・職員の院内感染症対策など、統括していると判断される。
					佐藤(和)委員	A	A	B	A	
					佐藤(裕)委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・様々な対策を講じているが、院内において4回にわたり、患者113名、職員30名という大きな規模のクラスターが発生したことは残念だった。 【がんセンター】 ・様々な対策を講じているが、院内において8回にわたり、患者75名、職員50名という大きな規模のクラスターが発生したことは残念だった。 【本部】 ・インシデントレポートの集約を第一回委員会において開示してほしい。
					菅原委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・確実安全な医療サービス提供における事故対策、情報セキュリティ対策の検討会議が実施されており、令和元年度から流行している新型コロナウイルス感染症への対応も前年度と同様に対応が維持されている。必要な事項は実施されているが、目標を上回る成果は確認できない。 【がんセンター】 ・確実安全な医療サービス提供における事故対策、情報セキュリティ対策の検討会議が実施されており、令和元年度から流行している新型コロナウイルス感染症への対応も前年度と同様に対応が維持されている。必要な事項は実施されているが、目標を上回る成果は確認できない。
					富田委員	A	A	B	A	【精神医療センター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【がんセンター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【本部】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。
					富永委員長	A	A	B	A	
					県	B	B	B	B	・2病院については、研修会の開催やマニュアルの見直し等により、医療安全対策を推進するとともに、院内感染症対策を行い、クラスター発生に適切に対応しており、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 ・本部事務局については、各病院のインシデント等の発生状況の情報発信や適切な情報管理に努めており、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 ・上記より、総合してBと判定した。

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等										
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等		
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合			
3 患者や家族の視点に立った医療の提供	B	B	B	B	石岡副委員長	B	B	B	B	<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神疾患患者に対する行動制限を行う場合には、本人とその家族に対してより丁寧な説明を心掛けていた。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインでセカンドオピニオンを受けることができる体制を整備していた。 待ち時間調査を実施し、初診・再診の患者ごとに分析結果を見える化し院内周知を図っていた。 <p>【本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新任職員研修において接遇研修を実施し、新任職員の必要な接遇スキルの習得に努めていた。 	
					井深委員	B	B	B	B		
					郷内委員	B	B	B	B		<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談窓口への相談件数の推移。入院栄養指導、外来栄養指導の件数。病院ボランティアの受け入れ、食事療養の充実、患者満足度調査の実施など一定の成果を上げている。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援センターでの相談対応件数。入院栄養指導、外来栄養指導の件数の推移 <p>地域医療連携室での「入退院支援加算1」の算定ボランティアの受入がほぼ目標に達した。</p> <p>【本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新任職員研修の実施
					佐藤(和)委員	B	A	B	B		
					佐藤(裕)委員	B	B	B	B		<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 着実に取り組んでいる。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 着実に取り組んでいる。 <p>【本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 着実に取り組んでいる。
					菅原委員	B	B	B	B		
					富田委員	B	B	B	B		<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価の内容は妥当と思われる。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価の内容は妥当と思われる。 <p>【本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価の内容は妥当と思われる。
					富永委員長	B	B	B	B		
					県	B	B	B	B		<ul style="list-style-type: none"> 2病院については、セカンドオピニオンに係る相談体制の整備や患者満足度調査の実施、患者サービス向上のための接遇研修の実施、食事療養の充実などに取り組んでおり、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 本部事務局については、病院利用者の利便性・快適性の向上に向けて新任職員に対する接遇研修の実施などに取り組んでおり、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 上記より、総合してBと判定した。

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等																								
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等																
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合																	
4 人材の確保と育成	B	B	B	B	石岡副委員長	B	B	B	B																
					井深委員	B	B	B	B													【精神医療センター】 ・法人主催の研修や公務研修所にて開催される研修を活用し、職員の資質向上に努めていた。 【がんセンター】 ・各種研修会への参加や外部研修機関への研修派遣、WEBを利用した学会等への参加を通じて、資質向上に向けた取組を行っていた。 【本部】 ・看護師採用試験の応募者確保対策として、看護師養成校訪問のほか、合同就職説明会への参加、就職情報サイトへの情報発信、インターンシップの受け入れ等、積極的な広報活動に努めていた。			
					郷内委員	B	A	B	B														【精神医療センター】 ・医師の採用が5人であること。研修医受入数が目標の124%達成した点は評価が高い。一方で医師の学会参加数が目標を下回ったことで、評価が下がる。 【がんセンター】 ・医師の採用が21人になり、後期研修医を8人採用したことは高く評価したい。東北大学大学院との連携状況は目標を達成している。 学会参加実績が目標を大きく上回っている。 【本部】 ・看護師の確保と育成に努めた。		
					佐藤(和)委員	B	A	B	B																
					佐藤(裕)委員	B	B	B	B															【精神医療センター】 ・着実に取り組んでいる。 【がんセンター】 ・着実に取り組んでいるが、医療系学生の受け入れ数が低迷していることが気がかりである。学生にとって魅力のある病院になっているのだろうか。【資料6-1 質問事項等5】 【本部】 ・着実に取り組んでいる。	
					菅原委員	B	B	B	B																
					富田委員	B	B	B	B																【精神医療センター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【がんセンター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【本部】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。
					富永委員長	B	B	B	B																
					県	B	B	B	B																

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等												
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等				
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合					
5 災害等への対応	A	A	A	A	石岡 副委員長	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・目標水準を「遙かに上回る」とは言えない。県内の他の医療機関との関係で考えると、物足りない物がある。 【がんセンター】 ・目標水準を「遙かに上回る」とは言えない。県内の他の医療機関との関係で考えると、物足りない物がある。 【本部】 ・目標水準を「遙かに上回る」とは言えない。県内の他の医療機関の貢献を考慮すると運営面で、物足りない物がある。			
					井深 委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 ・「宮城県立精神医療センター消防計画」に基づき、災害発生に備え、消防訓練を2回実施していた。 【がんセンター】 ・防火・防災訓練を実施したほか、感染症対策としての災害対策マニュアルを整備していた。 【本部】 ・職員の安否確認システムの活用訓練や無線機の通信訓練を行うなど、災害時における通信方法の確認を行っていた。			
					郷内 委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 ・おおむね目標どおりの達成度である。 ・新型コロナ感染症への対応は特筆に値する。 【がんセンター】 ・おおむね目標どおりの達成度である。 ・新型コロナ感染症への対応は特筆に値する。 【本部】 ・目標どおりの達成度である。新型コロナ感染症対策は機構全体として宮城県の対策に大きく貢献した。			
					佐藤 (和) 委員	A	A	B	A				
					佐藤 (裕) 委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・コロナ患者を外部から137人受け入れたことは高く評価できるが、昨年と違って院内でクラスターが発生したことは残念だった。 【がんセンター】 ・コロナ患者を外部から1,968人受け入れたことは高く評価できるが、昨年と違って院内でクラスターが発生したことは残念だった。 【本部】			
					菅原 委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・必要な災害対策における検討会議が実施されており、令和4年度の現況に即した新型コロナウイルス感染症への対応を実施している。目標を上回る成果は確認できないが、必要な事項を実施し維持されている。 【がんセンター】 ・必要な災害対策における検討会議が実施されており、令和4年度の現況に即した新型コロナウイルス感染症への対応を実施している。目標を上回る成果は確認できないが、必要な事項を実施し維持されている。 【本部】 ・必要な災害対策における検討会議が実施されている。目標を上回る成果は確認できないが、必要な事項を実施し維持されている。			
					富田 委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【がんセンター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【本部】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。			

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等										
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等		
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合			
					富永 委員長	A	A	A	A		
					県	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2病院については、訓練等を実施し、災害等に備えた対応を行ったほか、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行い、本県の対策に大きく寄与したことから、目標を上回る成果があると評価し、Aと判定した。 ・本部事務局については、防災訓練の実施やワクチン接種会場への医師派遣の調整など、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 ・上記より、総合してAと判定した。 	
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置											
1 業務運営体制の確立				B	石岡 副委員長					B	
					井深 委員					B	<ul style="list-style-type: none"> ・2病院では、定期的に運営会議や診療科長会議等を開催し、病院経営に関する情報の共有化や課題検討を行うとともに、患者満足度調査等を実施して業務改善に努めていた。 ・本部事務局では、理事会や理事長・院長等会議を主催し、経営状況や計画の進行状況を把握するとともに、病院個別の意見交換会を開催し、経営状況の改善に努めた。
					郷内 委員					B	
					佐藤 (和) 委員					B	
					佐藤 (裕) 委員					B	<ul style="list-style-type: none"> ・病院再編問題の渦中で、将来の病院の在り方が不透明であり、多くの不安を抱えながら現場は頑張っているのだろうと思う。政治の世界において一日も早く県民の納得いく解決を図ってもらいたい。
					菅原 委員					B	
					富田 委員					B	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の内容は妥当と思われる。
					富永 委員長					B	
					県					B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に運営会議等を開催し、情報共有を図り、適切に課題解決に取り組むとともに、グループ制の導入や各種会議、病院経営研修の開催など、効率的な業務運営の推進、経営改善に取り組んでおり、目標を達成していると評価し、Bと判定した。

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等										
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等		
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合			
2 収益確保の取組	B	B			石岡副委員長	B	B				
					井深委員	B	B				【精神医療センター】 ・レセプト査定率の削減や未収金縮減に努め、収益向上に向けた積極的な取組を実践していた。 【がんセンター】 ・経営分析システム等のベンチマークを活用し、DPCコードごとの医療資源投入量を各診療科の医師と検討し、適正化を図っていた。 ・後発医薬品への切り替えが可能な薬剤を抽出し、関連部署への情報共有を行っていた。
					郷内委員	B	B				【精神医療センター】 ・外来患者数、外来収益合計が目標を上回った。 【がんセンター】 ・コロナ禍においても外来収益、入院収益ともに確保できたことは評価したい。
					佐藤(和)委員	C	C				
					佐藤(裕)委員	C	B				【精神医療センター】 ・令和5年度第1回評価委員会資料6の67ページによると入院収益は前年の15億2,400万円から14億200万円へと減少している。それにもかかわらず、外来収益が3億1,200万円と前年並びに目標値を上回っていることをもって、「外来収益は昨年を上回り、目標を達成した」と全体を総括していることは自己評価が甘すぎる一つの例示であると思われる。 ・病床稼働率が62.3%と目標値69.9%を大きく下回った。 【がんセンター】 ・入院収益・外来収益ともに目標値を下回る結果となったが、一定の安定した水準を維持できていた。
					菅原委員	B	B				
					富田委員	B	B				【精神医療センター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【がんセンター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。
					富永委員長	B	B				
					県	C	B				・精神医療センターについては、収益確保に取り組み、外来延患者数や外来収益、レセプト査定率の目標は達成したが、入院延患者数や入院収益、病床稼働率の目標は下回っていることから、目標の水準を上回る成果があるとは認められないため、Cと判定した。 ・がんセンターについては、経営戦略会議の開催やデータ分析による経営改善に向けた取組を行っており、入院・外来収益はやや目標を下回ったものの、病院経営が厳しいコロナ禍においても安定した収益実績を残していることから、目標を達成していると評価し、Bと判定した。

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等									
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等	
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		
3 経費削減への取組	B	B	B		石岡副委員長	B	B	B		<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般競争入札やオープンカウンター方式の積極的な導入や複数年契約などの取組による経費削減を行っていた。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般競争入札やオープンカウンター方式の積極的な導入やプロポーザル方式による業者選定・複数年契約などの取組による経費削減を行っていた。 <p>【本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模病院を2病院運営するスケールメリットを活かした重油やLPG、コピー用紙等の一括入札を行い、経費の削減に取り組んでいた。 <p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札方法、医薬品の管理や後発品の導入など一定の成果を残した。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札方法、医薬品の管理、後発品への切り替えなど経費削減に取り組んだ。
					井深委員	B	B	B		
					郷内委員	B	B	B		
					佐藤(和)委員	C	C	C		
					佐藤(裕)委員	B	B	B	<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を行ったが、材料費比率は目標を下回った。 ・後発医薬品使用品目数が伸び悩んでいる。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を行ったが、材料費比率は目標を下回った。ただし近年の中では比較的良好な数字だった。 	
					菅原委員	B	B	B		
					富田委員	B	B	B	<p>【精神医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の内容は妥当と思われる。 <p>【がんセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の内容は妥当と思われる。 <p>【本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の内容は妥当と思われる。 	
					富永委員長	B	B	B		
県	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・精神医療センターについては、一般競争入札等の積極的な導入により競争性を確保するなど、経費削減に取り組んでおり、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 ・がんセンターについては、複数年契約など有利な契約方法を選定し実施するとともに、後発医薬品への切り替えを進めるなど、経費削減に取り組んでおり、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 ・本部事務局については、多様な契約方法の選定に加え、新たに医事業務の一括契約を行うなど、スケールメリットを生かした経費削減に取り組んでおり、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 						

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等									
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等	
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		
III 予算、収支計画及び資金計画	B	石岡副委員長							C	・医療収入の赤字が改善していない。
		井深委員							B	・新型コロナウイルス感染症による患者数の減少が見られたものの、補助入金もあり、最終損益は予算を130百万円上回る140百万円の黒字計上となった。 ・本部勘定として計上されている経費を2病院へ按分するなど、病院ごとの本質的な損益状況を「見える化」することについても検討する必要がある。
		郷内委員							B	◎経常収支比率100.8%と目標を上回った。【B】 ◎医療収支比率は目標を下回った。【C】 ◎経常収支比率は「精神」【A】、「がん」【B】、「本部」【B】 ◎医療収支比率は全て【C】 2 経営基盤の立て直し コロナ補助金により純損益が改善した。 VII 剰余金の使途 繰り越し欠損金の縮減に使われたことは良いと思う。
		佐藤(和)委員							B	
IV 短期借入金の限度額		佐藤(裕)委員							C	・経常収支比率はまずまずの数字であったが、これは新型コロナウイルス感染患者受け入れに伴う補助金が増加されたことによるものである。 ・医療収支比率は両病院とも目標を下回っているが、特に精神医療センターにおける入院収益の減少が大きいと思われる。
V 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画		菅原委員							B	
		富田委員							B	・自己評価の内容は妥当と思われる。
VI 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画		富永委員長							B	
VII 剰余金の使途	県							B	・法人全体として、主に新型コロナウイルス感染症による患者数減少があったものの、補助金の受け入れ等により、経常収支比率が100.8%となっており、目標を達成していると評価し、Bと判定した。	
VIII 積立金の処分に関する計画										

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等														
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等						
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合							
IX. その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置															
1 人事に関する事項				B	石岡副委員長								B		
						井深委員								B	・文書整理や執務環境整備等の定型的業務を処理するため、有期雇用職員1名を雇用・活用していた。 ・退職者を再雇用し、経営効率の高い業務運営体制の構築に努めていた。 ・事務職員を対象とした人事評価制度を試行実施していた。
						郷内委員								B	・障害者雇用率が法定雇用率を達成したことは評価できる。
						佐藤(和)委員								B	
						佐藤(裕)委員								B	・病院再編問題の渦中で、人の確保は困難な問題ではあるが、日々来院する患者のためにはきちんとして対応しなければならない。
						菅原委員								B	
						富田委員								B	・自己評価の内容は妥当と思われる。
						富永委員長								B	
				県								B	・法人全体として、有期職員及び再雇用職員の採用数の増加や、障害者雇用における法定雇用率の達成などから、目標を達成していると評価し、Bと判定した。		
2 就労環境の整備				B	石岡副委員長								B		
						井深委員								B	・理事長・院長等会議、事務局連絡調整会議、事務局グループリーダー会議を通じて、2病院との情報共有や業務調整等を行っていた。 ・職員のストレスの程度を把握し、職員自身のストレスへの気付きを促すとともに、職員がメンタルヘルス不調となることを未然に防止することを目的にストレスチェックを実施していた。 ・各種ハラスメントの防止のため、管理者・監督者合同研修において研修を行うなど、ハラスメント行為のない職場環境の構築に努めていた。
						郷内委員								B	・職員の健康管理の徹底が図られたことは良いと思います。 ・職員の負担軽減と家庭環境への配慮を更に充実していただきたい。
						佐藤(和)委員								A	
						佐藤(裕)委員								B	・病院再編問題の渦中で、両病院の職員も様々な不安を抱えているはずなので、適切に情報を開示していくことが必要である。
						菅原委員								B	
						富田委員								B	・自己評価の内容は妥当と思われる。
						富永委員長								B	
				県								B	・法人全体として、就労環境の整備について、業務補助者による職員の負担軽減やハラスメント研修会の開催などに適切に取り組んでいることから、目標を達成していると評価し、Bと判定した。		

評価項目	令和4年度業務実績に係る意見等									
	法人自己評価				委員評価				委員評価に当たっての意見・指摘等	
	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		
3 病院の信頼度の向上	B	B			石岡副委員長	C	C			【精神医療センター】 ・病院統合問題で県民の信頼性は低下している。 【がんセンター】 ・病院統合問題で県民の信頼性は低下している。
					井深委員	B	B			【精神医療センター】 ・臨床研究病院、専門医研修施設の指定を継続し、研修施設としての体制を整えた。 【がんセンター】 ・倫理審査委員会を年6回開催し、倫理審査を的確に行うとともに、その結果についてウェブサイト上で公開する等広く職員に周知した。
					郷内委員	C	A			【精神医療センター】 ・病院機能評価の認定実績がH29年度からストップしていることは由々しき問題 6年間も放置されていることは、信頼度を大きく損なうと危惧する。外部のチェックが入らないことは診療提供体制が担保されているのか？ 確認できない。【資料6-1 質問事項等6】 【がんセンター】 ・令和4年度中に厚労省の「都道府県がん診療連携拠点病院更新」が認定され、4年間拠点病院として運営できることは、日頃の職員各位の努力の賜物である。 今回は全国で審査の段階で不備を指摘され、4年間の更新を見送られた病院がいくつも発生しており、宮城県病院が全て4年間の更新を獲得したことは、がん診療の質の担保が図られ、評価したい。
					佐藤(和)委員	A	A			
					佐藤(裕)委員	B	B			【精神医療センター】 ・病院再編問題の渦中で、既存の病院の信頼度向上について評価するのは極めて難しいが、現在の患者のために精一杯信頼を確保することが期待される。 【がんセンター】 ・病院再編問題の渦中で、既存の病院の信頼度向上について評価するのは極めて難しいが、現在の患者のために精一杯信頼を確保することが期待される。
					菅原委員	B	B			
					富田委員	B	B			【精神医療センター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。 【がんセンター】 ・自己評価の内容は妥当と思われる。
					富永委員長	B	B			
					県	B	B			・精神医療センターについては、新病院建設計画の延期により、令和4年度についても病院機能評価の認定が取得できなかったが、平成28年度に院外サーベイヤー(評価調査者)により指南を受け、年度計画どおり自己点検を行い、代替措置を講じていることなどから、目標を達成していると評価し、Bと判定した。 ・がんセンターについては、病院機能評価更新のための審査を受けるとともに、倫理審査委員会を定期的に開催し、医療倫理の周知・徹底に努めていることなどから、目標を達成していると評価し、Bと判定した。